

B表（検査職員用）

森林作業道チェックリスト(例)

コード番号： _____	幅員： _____ m 延長： _____ m
事業主体名： _____	検査日： 平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日
路線計画者氏名： _____	検査者： _____
	検査日： 平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日
施工従事者氏名： _____	検査者： _____

区分	チェック項目	確認	所見等
I 路線計画	1 計画	①十分な現地踏査を行って、路線計画を決定しているか。	
		②地形、地質の安定している箇所を通過するように計画しているか。	
		③地形に沿った屈曲線形、排水を考慮した波形勾配で計画しているか。	
		④林道や公道との接続地点、地形を考慮した接続方法、人家、施設、水源地などがある場合、それらを迂回するよう検討しているか。	
		⑤やむを得ず破砕帯などを通過する場合は、区間を極力短くしたり、簡易な工作物等を適切な位置に設置するよう計画しているか。	
		⑥森林施業の効率化の観点だけでなく潰れ地となる小規模森林所有者にも配慮して計画しているか。	
		⑦造材、積み込み作業や作業を安全かつ効率的に行うための空間を適切に配置するよう計画しているか。	
		⑧作設費用と得られる効果のバランスに留意しているか。	
		⑨近傍の作設事例地を参考にしているか。 (事例地がある場合はその林小班を確認すること)。	
		⑩森林法等に基づく届け出等の手続が必要な場合、手続をとっているか。	
		⑪丸太組工を計画する場合は、丸太組工の高さをできるだけ低くするよう計画しているか。	
		⑫丸太組工を計画する場合は、機能を維持していくため適切な維持管理が必要となることを地権者等に説明しているか。	
2 幅員	使用する林業機械と傾斜区分に対応して示されてる幅員の目安に適合するよう計画しているか。 車両クラス _____ 林地傾斜 _____ 度		
3 縦断勾配	①集材作業を行う車両が、木材を積載し安全に上り走行・下り走行ができることを基本に計画しているか。 (概ね 10° (18%) 以下が目安)		
	②集材作業を行う車両の自重、木材積載時の荷重バランス、エンジン出力などのほか、路面の固さ、土質による滑りやすさ、勾配が急になるほど路面浸食が起きやすくなること等を考慮して計画しているか。		
	③安全確保の観点から、急勾配区間と曲線部の組み合わせをできるだけ避けるようにしているか。		

区分	チェック項目	確認	所見等
I 路線計画	4 排水計画	①横断排水施設やカーブを利用して分散排水するように計画しているか。	
		②適切な排水先がない場合や湧水などがある場合は側溝等により導水するように計画しているか。	
		③排水はカーブ上部の入口部分で行い、曲線部への雨水の流入を避けるように計画しているか。	
		④転落事故防止のため、降坂区間やカーブで谷側を低くしないように計画しているか。	
II 施工	1 土質	①土質を検討しているか。	
		②土質に応じた施工方法を検討し、実施しているか。	
	2 切土	①土高は1.5m程度以内を基本としているか(ヘアピン区間等を除く)。なおかつ高い切土が連続しないように施工しているか。	
		②土のり面勾配は土砂の場合は6分、岩石の場合は3分を基本として施工しているか(直切が可能な場合は、切土高が1.2m程度以内で直切を実施可)。	
	3 盛土	①堅固な路体をつくるために、締固めは概ね30cm程度の層ごとに十分に行っているか。	
		②盛土のり面勾配は、盛土高や土質等にもよるが、概ね1割より緩い勾配で施工しているか。また、盛土高が2mを超える場合は、1割2分程度の勾配で施工しているか。	
		③腐朽し、盛土路体が劣化する原因となる末木、枝条などを盛土路体に巻き込まないように施工しているか。	
		④作設現場にある丸太を無意味に盛土路体に巻き込まないように施工しているか(路体の劣化を招くだけでなく、締固めができないので、行わない)。	
		⑤剥ぎ取り表土を盛土のり面の緑化材料として活用しているか。	
		⑥ヘアピンカーブにおいては、路面高と路線配置を精査し、盛土箇所を谷側に張り出す場合には、締固めを繰り返したり、構造物を設けるなどして、路体に十分な強度を持たせるように施工しているか。	
		⑦盛土の土量が不足する場合は、当該盛土の前後の路床高の調整など縦方向での土量調整を行っているか。	
	4 曲線部	林業機械が安全に走行できるよう、内輪差や下り旋回時のふくらみを考慮した曲線部の拡幅を確保しているか。	
	5 簡易構造物等	①構造物は、適切なものを選定し、適切な位置に設置しているか(作設指針に適合する簡易なものとし、不必要に高価で高規格なものを使っていないかの観点)。	
②やむを得ず軟弱地盤の箇所を通過する場合は、水抜き処理を行ったり、側溝等を設置しているか。			
③やむを得ず森林作業道の作設に不向きな黒ぼくや粘土質のロームなどの箇所を通過する場合は、必要な路面支持力を得るため、碎石を施すなどの対策をとっているか。			
④火山灰土など、一度掘り起こすと締固めが効かない土質の箇所掘削を行う場合は、火山灰土などの深さに応じて、剥ぎ取ったり深層と混ぜ合わせる等工夫しているか。			
⑤2t積トラックなど設置圧の高い車両が走行する場合には、荷重を分散させるため丸太組による路肩補強工を施工しているか。			

区分	チェック項目	確認	所見等
II 施工	6 排水施設	①路面の縦断勾配、当該区間の延長及び区間に係る集水区域の広がり等を考慮して、適切な間隔で設置しているか。	
		②排水溝は、維持管理を考慮し、開きよとしているか。	
		③丸太を利用した開きよやゴム板などを利用した横断排水施設を設置する場合は、走行車両の重量や足回りを考慮しているか。	
		④横断排水施設の排水先には、路体の決壊を防止するため、岩や石で水たたきを設置したり、植生マットで覆うなどの処理をしているか。	
		⑤湧水がある場合、側溝などを設け適切に導水処理をしているか。	
		⑥小溪流を横断する場合は、原則として暗きよではなく洗い越しで施工しているか。	
	7 伐開	①施業地の斜面の方向や地域の気象条件を考慮し、必要最小限の幅としているか。	
		②伐開の幅は、施業地の土質を考慮して決定しているか。	
		③路線沿いの立木は、できるだけ残しているか（路肩部分の保護、車両の転落に対する走行上の安心感を与える効果もある）。	
		④伐開の幅は必要な範囲に限定しているか。	
III の 配 慮 の 周 辺 環 境 へ	①森林作業道の作設工事中及び森林施業の実施中、公道や溪流に土砂が流出したり、土石が周辺に転落しないよう、必要な対策をとっているか。		
	②事業実施中、希少な野生生物の生息・生育情報を知った場合、必要な対策を検討しているか。		
IV 管 理	①必要に応じて一般の車両の進入を禁止するなど適正に管理しているか。		
	②丸太組工を施工したときは、地権者等に対して施工箇所（外から施工箇所を確認できない場合）、腐朽状況の確認方法及び維持管理の方法等機能維持に必要な対策を具体的に説明した記録があるか。		

- (注) 1 確認欄は、チェック項目（森林作業道作設指針）に沿っているかを確認し「✓」を記入する。項目の該当がない場合は「-」を記入する。
2 所見等の欄には、検討や改善が必要な事項・箇所、その他意見等を記入する。
3 各区分におけるチェック項目は、必要に応じて適宜追加する。